

## 国内のブラインド等の市場と安全対策

- ブラインド類・スクリーン類は、カーテンに比較し市場規模は小さいものの、一定のシェアを確保している。
- ブラインドについては、ほとんどが国内生産で、主要 4 社で市場の約 8 割を占めている。オーダーを受けてから 1-2 週間で生産・納品する。
- 新築時やリフォームの一環での購入が多く、単体での買い替え需要の周期は 10 年弱と考えられている。
- ブラインド類・スクリーン類のひもについては、日本ブラインド工業会にて警告マークの添付を徹底。安全対策は各社判断で実施されているが、コードクリップの装着などユーザーに任されている部分もある。
- カーテンの留めひも（タッセル）で危険性の高い細いひも状のものについては、インターネットや量販店で売られているケースが多く、対策が遅れている。

## (1) 国内のブラインド等の市場の動向

- ブラインド類・スクリーン類・カーテンの市場規模は、住宅着工戸数に連動する傾向にあり、ここ 3 年はやや好調。
- 市場規模の半分強はカーテンであり、次いでスクリーン類、ブラインド類となっている。その中で、スクリーン類のシェアがやや高まっている。
- 都内の子供のいる方へのアンケート<sup>1</sup>によれば、若い世代の住宅の 2 割以上でブラインド類またはスクリーン類が設置されている。

表 ブラインド類・スクリーン類・カーテンの市場規模（卸売ベース）（単位：億円）

	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
ブラインド類	317	264	255	279	278
ヨコ型ブラインド <sup>*</sup>	245	205	197	220	214
タテ型ブラインド <sup>*</sup>	72	60	58	59	64
スクリーン類	352	311	315	316	341
ロールスクリーン	233	201	196	193	219
ローマンシェード <sup>*</sup>	67	61	68	68	65
ブリーツスクリーン	52	50	52	55	58
カーテン	1,202	1,092	1,106	1,094	1,108
カーテンレール類	256	231	227	235	239
合 計	2,127	1,898	1,904	1,923	1,966

出典) 一般社団法人日本インテリアファブリックス協会 (NIF) 「平成 23 年度のインテリアファブリックス事業の概況 < 市場規模の算定 > 」

注) 「ヨコ型ブラインド」「タテ型ブラインド」: 原本ではそれぞれ「ベネシャンブラインド」「パーチカルブラインド」

<sup>1</sup> 都内 (在住・在勤) 20-30 代の子供のいる方 3,595 件への web アンケート結果 (2013/10/4-6 実施) より推定

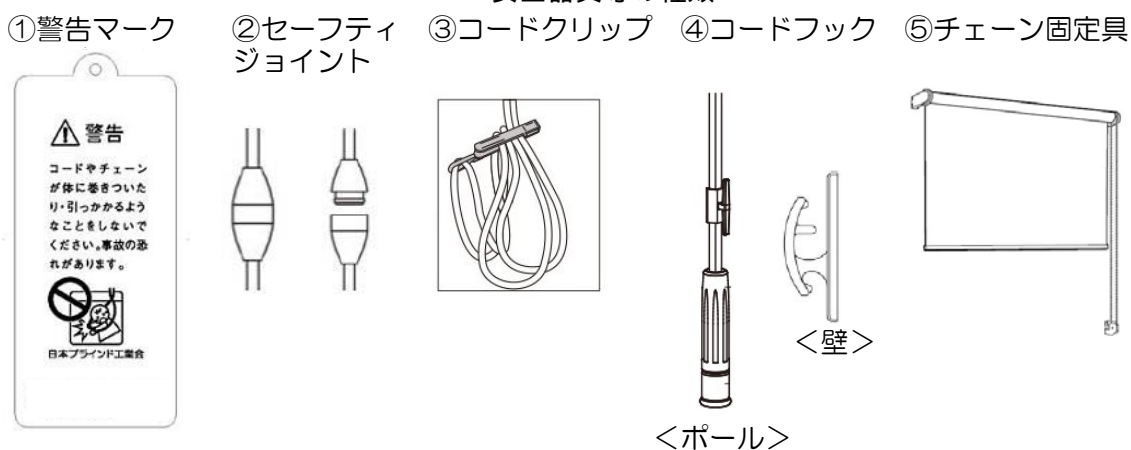
- カーテンについては、近年の量販店・ホームセンターでの販売増を背景に、オーダー製品から既成品へシフトする流れもあり、輸入品は約 2 割を占めている。一方、ブラインドについては、ほとんどが国内生産であり、主要 4 社で市場の約 8 割を占めている。オーダーを受けてから 1-2 週間で生産・納品する。
- 消費者は、コスト、機能、装飾性といった観点で商品を選択。ブラインドはカーテンに比べて機能を重視しての選択が多い。
- 新築時やリフォームの一環での購入が多く、単体での買い替え需要の周期は 10 年弱と考えられている。
- カーテンの留めひも（タッセル）のうち、細いひも状やロープ状のものは、装飾性の観点から選ばれる。ほとんどが輸入品であり、ネットや量販店で売られることが多く対策が遅れている。

## (2) ひもの安全対策について

### 【ブラインド類・スクリーン類のひも】

- 日本ブラインド工業会（会員企業 4 社）において、平成 17 年（2005 年）に警告のマークを作り周知を徹底している。同年以降、各社の判断で安全器具が装備されている。安全器具は、基本的に、セーフティジョイント（荷重によって外れるジョイント）、コードクリップ、壁やポール等へ固定するコードフックの 3 種類。
- 輸入製品の中には、チェーン固定具を付属しているものもある。

#### <安全器具等の種類>



- ① 警告マーク：日本ブラインド工業会の警告マーク
- ② セーフティジョイント：ひもの途中に設置され、一定の荷重で外れるジョイント
- ③ コードクリップ：ひもを高い位置でまとめておくためのクリップ
- ④ コードフック：<ポール>ワンコントロール式のポールに、ひもを固定するフック  
<壁>ひもを高い位置にまとめておくための、壁固定型フック
- ⑤ チェーン固定具：壁に設置し、ポールチェーンを引っかけることで、ループ状になるのを防ぐ器具（引っかけた状態で操作を行う）

- セーフティジョイント等については、会員各社それぞれが自社基準を設定している。例えば、ある社の自社基準は、幼児の頭の入る大きさ（300mm 以上、直径 100mm 以上）のループがある商品について、ヨチヨチ歩きの幼児の体重（8.0kg から 12.9kg）に対応する 80N で外れるジョイントを付けている。また、検査・計測は自社で行っている。
- 安全確保の方法は複数あり、また、ひも（またはチェーン）の伸縮性等の条件が多様であることから、安全基準を統一することは難しいと想定されている。
- タグまたはシール、及び取扱説明書によって危険性の周知が行われているが、コードクリップの利用実態等は把握できていない。
- 事故情報については、工業会としての窓口はない。最終消費者からの声は、各社で各営業店を通じて本社に届いている。状況に応じ工業会にて検討される。

#### 【カーテン留めひも（タッセル）】

- 留めひも（タッセル）は、共布（ともぬの）、ロープ状、細いひも状の、おおまかに 3 種類。

#### <カーテン留めひも（タッセル）の種類>

共布



ロープ状



細いひも状



- 共布（ともぬの）・ロープ状のものは、ループ状の状態では子供の頭より小さいため、リスクは小さいと考えられる。
- 事故リスクが高いのは、細いひも状のタッセルであり、輸入品、量販店やネット販売が多いため、業界としての把握は難しい。タッセルについての安全表示はなく、自主基準も現在のところない。
- 安全対策として、壁の房掛けにかけるひも部分を 1 つとしてマジックテープで留めるもの、マグネットで留めるものなども商品化されている。
- 業界（一般社団法人日本インテリアファブリックス協会（NIF））として、ひもの長さ等の具体的な基準はあったほうがよいと考えている。ただ、家具との位置や好み等によって、房掛けの設置高さが変わり、タッセルの位置も異なるので、設定は難しいだ

ろうとの意見であった。

- 事故情報について、NIFの直接窓口はない。最終消費者からの声は、各社で各営業店を通じて本社に届き、状況に応じNIF幹事会にて検討される。

(調査協力：日本ブラインド工業会、一般社団法人日本インテリアファブリックス協会)